



9/8 (土) プラタモリ～鳥取砂丘～



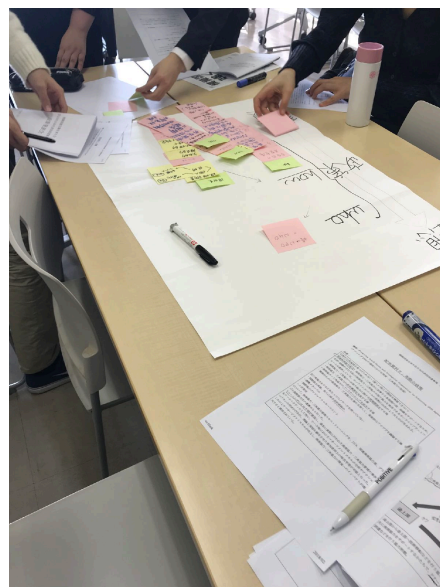
大学入学共通テスト導入に向けた
試行調査（プレテスト）問題分析の一試論
～「考察することができる」とは何か？～

中村秀司（鳥取県立鳥取西高等学校） 蒼下和敬（山口県立響高等学校）

地理教育研究会 第57回 札幌大会

目次

1. はじめに
2. 問題分析の方法
3. 問題分析の結果
4. 考察とまとめ



1. はじめに

- ◆平成30年学習指導要領により「地理総合」「地理探究」が公示
- ◆思考力、判断力、表現力等を身に付けさせることは、「1 目標」の(2)に挙げられるように、授業過程において今後ますます重要になってくる
- ◆特に考査や入試などの評価問題は、授業者及び学習者にとって学びの方向付けとなる点で大きな役割を持つ
- ◆平成29年11月に実施（独立行政法人大学入試センター）された大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）を分析

2. 問題分析の方法

(1) 仮の大分類について

- ◆結果速報によると、「主に問いたい資質・能力」のうち、「思考力・判断力・表現力」がA～Gの7つに分類される。
- ◆我々はこれを思考力、判断力、表現力の三つとする仮の大分類を設け、その出題数をカウントした。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 19		ヨーロッパにおける気候区分についての理解	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる。	ハイサーグラフから読み取った気候の情報と都市の位置を関連付けて考察する。	65.9
問2 20		ヨーロッパの農業についての理解	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。	景観写真から読み取った農業の特徴と地図上の場所を関連付けて考察する。	47.3

(1) 「考察することができる」を語尾とする設問 (思考力/考察)

A 事象について位置や分布などからとらえ考察することができる。4問 Location and Distribution

B 事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。5問 Place

C 地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。6問 People-Environment Relationships

D 地域的特色について多面的・多角的に考察することができる。2問 Region

E 地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる。3問 Spatial Interaction

(2) 「構想することができる」を語尾とする設問 (判断力/構想 (選択・判断))

F 地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想 (選択・判断) することができる。1問

(3) 「まとめることができる」を語尾とする設問 (表現力/説明)

G 地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる。3問

People-Environment Relationships:

People use environments in a variety of ways. Thus they create varied cultural landscapes through different patterns of activities. On the one hand, they are influenced by their physical settings, but on the other, they transform their surroundings into different culturally created environments, including landscapes of harmony and landscapes of conflict. Understanding these complex interactions within space provides an important basis for responsible environmental planning, management and protection.

(3) 人間と自然環境との相互依存関係

人間は、自然環境を多様に利用する。また、様々な働きかけにより、多様な文化景観を造り出す。人間は、一方で自然諸要素の影響を受けるとともに、他方で、身の周りの環境を調和の取れた景観に変えたり、ときには不調和な景観へと変化させたりする。つまり、空間における複雑な相互依存関係への理解が、環境計画や環境管理、あるいは環境保護にとって大変重要なものとなる。

責任ある

基礎

⑦ 「人間と自然環境との相互依存関係」について

「そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」、「そこでの生活は、周囲の自然環境にどのような影響を与えているか」、そうした問いから明らかになるのは、人々の生活と自然環境との密接な関わりである。人々の生活は自然からの制約を受けることで、それに対応して伝統的な生活様式を確立してきたし、それに対応して生活に関わる技術を発展させてきた。一方で、人々は自然環境に働きかけ、自然環境を改変するなどして自然環境に影響を与えてもきた。それらの関わりについて「なぜそのような影響を受けているのか」、「なぜそのような影響を与えているのか」を考えることは「どのような自然の恩恵を求めるのか」、「どのように自然に働きかけるのか」など、人間と自然環境との関係について考える出発点となる。人間と自然環境との相互依存関係について考えることは、地域的特色を理解したり、地域の環境開発や環境保全を考えたりする際の重要な基礎となる。

責任ある

人間と自然環境との相互依存関係 → 人間と自然環境との関係

Spatial Interaction:

Resources are unevenly distributed across the earth. No country is self-sufficient. Places are linked by transport and communication systems in order to exchange resources and information. Insight into spatial interactions leads to understanding of the current cooperation of people through the exchange of goods and information and by migration. This insight also leads to the detection of current problems and to ideas for improving regional, national and international interactions and cooperation.

(4) 空間的相互依存作用

資源は、一般にこの地球上に不均等に分布する。資源の自給自足ができる国など存在しえない。また、場所は、資源や情報を交換するために、運輸・通信システムにより結ばれている。さらに、空間的相互依存作用に立ち入ってみると、財や情報の交換、あるいは人口移動による人々の協力を理解することにつながる。また、空間的相互依存作用を探求することは、現代の問題を浮き彫りにしたり、地域的、国家的あるいは国際的な相互依存作用や協力関係の改善へのアイデアを提起したり、あるいは、貧困と富裕並びに人類の福祉への深い理解をもたらしてくれる。

現代的課題

⑤ 「空間的相互依存作用」について

人や資源、財、情報などあらゆるものは、地球上に不均等に分布している。このため、全ての場所は交通や通信等によって他の場所や地域と結び付いている。「そこは、それ以外の場所とどのような関係をもっているのか」という問いは、その結び付きにおいて見られる地域間の相互依存や協力、競合などの様々な関係を浮き彫りにする。また、「なぜ、そのような結び付きをしているのか」という問いは、空間的な関係性の要因を考察することにより、人や資源、財、情報などの不均等な分布を地域的に理解し、地域的特色の形成を明らかにするだけでなく、今後の地域の開発や地域間の関係改善への課題を見だし、地域の将来像を構想することにもつながる問いである。

空間的相互依存作用 → 空間的相互作用

(2) 考察活動の具体性の検討

- ◆「考察することができる」（思考力）を語尾とする設問の資質・能力は、文節の前半が中心的概念に沿って5種に分類された。
- ◆その内容を検討すると、考察活動の具体性が発見できる。受検者が解答するに当たり、具体的にどのような考察活動を必要としたか、検討した。
- ◆具体的な考察活動の内容や、「考察」に代わる活動を用い、「考察することができる」という表現を用いない形で、言葉の変換を試みた。

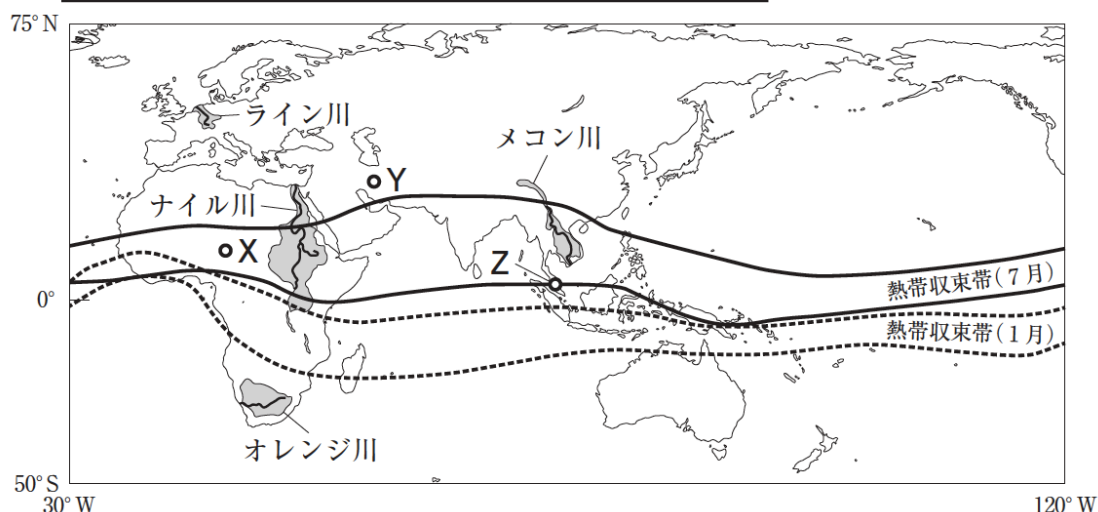
考察活動に具体性をもたせるために

CLIL（内容言語統合型学習）におけるCheck Listを活用

appreciating（他者・自己理解）	identifying cause and effect（物事の原因と結果を理解する）
assigning（項目の割り当て）	imaging（心的イメージ）
associating（関連）	linking（関係を見つける）
classifying（カテゴリー化）	observing（誰が何をするのか観察する）
combining（項目を一つにまとめる）	predicting（何が起こるのか予測する）
committing（責任を理解し受け入れる）	reconciling（対立する物事をまとめる）
comparing（類似と相違）	roleplaying（相手になって考えて行動する）
condensing（テキストの重要点の抽出）	separating（物事を分解して要素を理解する）
converting（項目や情報の特徴を変える）	selecting（好みに応じて必要な選択をする）
defining（重要な特質や特徴を決める）	triggering（別のことを始めるきっかけを作る）
describing（項目や情報の特徴を報告する）	utilizing（物事がどういう状態でどう使われてきたか考える）
designating（物事に名称や機能などを割り当てる）	verifying（情報がどう受け入れられるようになったか検証する）
extending（考えをさらに先に進める）	

A 「事象について位置や分布などからとらえ考察することができる」
の設問について

先生「その通りです。熱帯雨林気候だけでなく、b その他の熱帯地域や周辺地域の気候も熱帯収束帯に影響を受けています」



STEP1 設問を受検者にとっての問いに置き換える

問い「熱帯収束帯は、その他の熱帯地域や周辺地域の気候にどのような影響を与えているか？」

- ①原因：熱帯収束帯が不活発であるための異常少雨
影響：サヘルのはれ
- ②原因：貿易風が不活発であるための寒流弱体化
影響：エルニーニョ現象による水温上昇（②が正解）
- ③原因：熱帯収束帯の降雨と亜熱帯高圧帯の乾燥
影響：サバナの雨季と乾季
- ④原因：熱帯低気圧の発生・形成と組織化
影響：温帯域の熱帯低気圧

STEP2 問いから、どのような思考力が必要とされたかを検討する

>原因となる熱帯収束帯の働きから
赤道周辺地域（熱帯地域と周辺地域）に与える影響
を考えることができる

STEP3 具体的に求められる思考力を検討する

主題図を基に、熱帯収束帯が熱帯地域、周辺地域に与える影響について考察する。

>ア 事象について原因と影響の関連性を特定できる
(identifying cause and effect)

RESULT A → ア (2例)

解答番号2

主に問いたい資質・能力

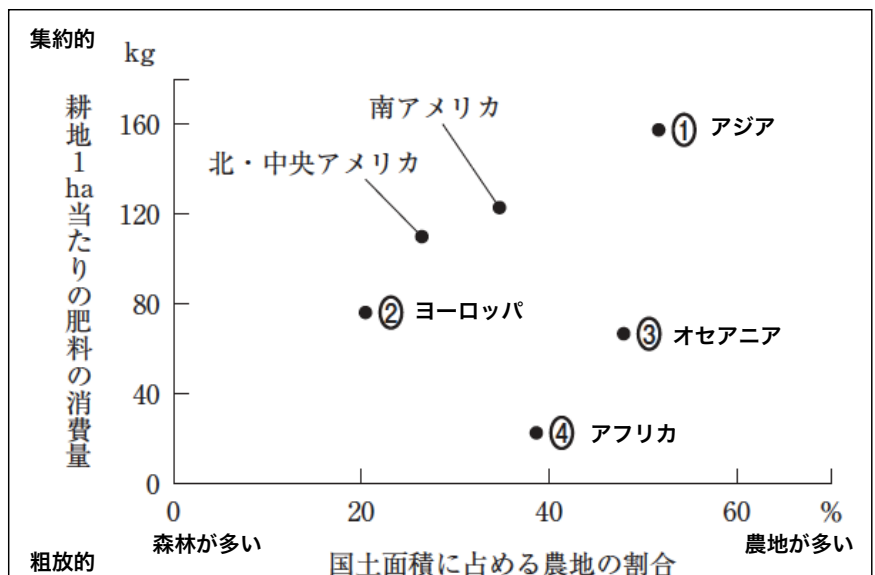
A 「事象について位置や分布などからとらえ考察することができる」

中村・蒼下の分類

「ア 事象について原因と影響の関連性を特定できる」
(identifying cause and effect)

C 「地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる」の設問について

問3 図2中のカードBを調べた班は、世界の地域別に統計資料を用いて、グラフを作成し分析した。次の図4は、国土面積に占める農地の割合と耕地1ha当たりの肥料の消費量を示したものであり、①～④は、アジア、アフリカ、オセアニア、ヨーロッパのいずれかである。アジアに該当するものを、図4中の①～④のうちから一つ選べ。



STEP1 設問を受検者にとっての問いに置き換える

問い「主な作物はどのように作られているか？」

- ①原因：アジア式の集約的稲作・畑作農業
影響：小規模経営で、労働力や肥料の投下量が多い農業
位置：アジア（と特定する）
- ②原因：ヨーロッパ起源の集約的な商業的農業
影響：一定の規模があり、シベリアにタイガが広がり森林面積割合が大きい
位置：ヨーロッパ（と特定する）
- ③原因：粗放的な企業的農業
影響：牧場・牧草地が広く農地面積割合が大きい、一定の肥料消費量がある
位置：オセアニア（と特定する）
- ④原因：自給的農業やプランテーション農業
影響：肥料の投下量が少ない農業
位置：アフリカ（と特定する）

STEP2 問いから、どのような思考力が必要とされたかを検討する

＞世界の地域別に行われている農業に関する知識を踏まえて、投下される肥料の違いや国土面積に占める農地の割合を考え、その位置を特定することができる

STEP3 具体的に求められる思考力を検討する

散布図から情報を読み取り、農地面積と肥料の消費量の関係から、世界の地域別特徴をとらえる。

＞ア 事象について原因と影響の関連性を特定できる

(identifying cause and effect)

RESULT C → ア (6例)

解答番号9

主に問いたい資質・能力

「C 地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる」

中村・蒼下の分類

「ア 事象について原因と影響の関連性を特定できる」
(identifying cause and effect)

B 「事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる」
の設問について

問4 写真1のカ～クは、開発のすすむいくつかの都市の景観を撮影したものであり、文章は、各都市についての説明である。文章中の下線部a～cについて、正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。



カ



キ



ク

カはリオデジャネイロであり、a 近代的な開発が進んだ沿岸部に対して、土地条件の悪い傾斜地にはファベラと呼ばれる不良住宅地区がみられる。キはシャンハイ(上海)であり、b 沿岸部の広大な用地に高層ビル群が建設され、商業・金融の世界的な中心地として発展している。クはドバイであり、c 巨額のオイルマネーを背景に、世界最高層のビルや都市インフラの建設が進んでいる。

STEP1 設問を受検者にとっての問いに置き換える

問い「景観写真から判断すると、各都市はどのような状況であると考えられるか？」

- a カはリオデジャネイロ
傾斜地にファベラと呼ばれるスラムがみられる
- b キはシャンハイ
沿岸部に、商業・金融の中心地が発達する
- c クはドバイ
オイルマネーを背景にした都市建設が進む

STEP2 問いから、どのような思考力が必要とされたかを検討する

> 景観写真を踏まえて、各都市について場所の特徴を捉えることができる

STEP3 具体的に求められる思考力を検討する

景観写真を読み取り、各都市の特徴をとらえ、景観が形成された要因について考察する。

> イ 事象についての重要な特質を定義付けることができる
(defining)

RESULT B → イ (5例)

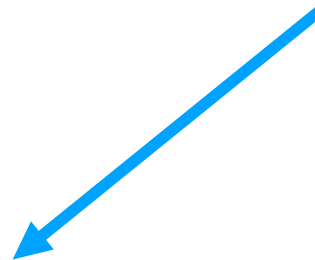
解答番号16

主に問いたい資質・能力

「B 事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる」

中村・蒼下の分類

「イ 事象についての重要な特質を定義付けることができる」
(defining)



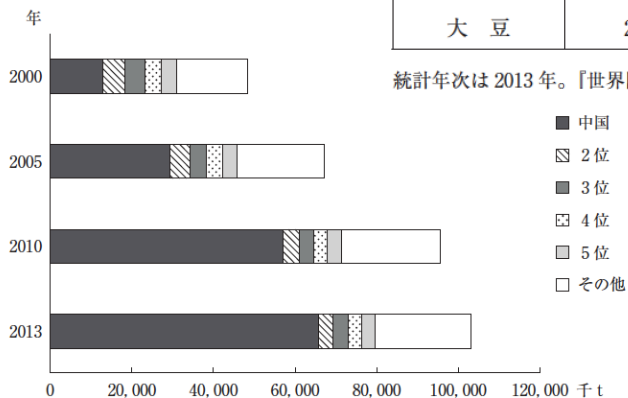
D 「地域的特色について多面的・多角的に考察することができる」 の設問について

表 2

(単位：千 t)

作物名	生産量	輸出量
小麦	711,142	162,798
米	738,064	37,127
トウモロコシ	1,017,537	124,222
大豆	278,093	106,169

統計年次は 2013 年。『世界国勢図会』により作成。



中国は台湾を含む。
『世界国勢図会』により作成。

問4 図2中のカードCを調べた班は、小麦、米、トウモロコシ、大豆の世界全体の生産量と輸出量を調べた結果を、表2にまとめて話し合った。そのとき用いられた図5は、大豆の輸入上位5か国の輸入量とその世界全体に占める割合を示している。会話文中の空欄力とキに当てはまる語句の正しい組合せを、①～④のうちから一つ選べ。

10

STEP1 設問を受検者にとっての問いに置き換える

問い「主な作物は、どのように流通しているだろうか？」

カ
米は輸出量が少ない
米は生産量に占める輸出量の割合が小さい
→自給的作物

キ
中国での大豆需要が高まる
食料用・飼料用の需要増加

太郎「生産量で一番多いのは、トウモロコシだね」

桜子「逆に、大豆の生産量が一番少ないね」

次郎「輸出量を見ると、小麦が一番多いことがわかるね」

桃子「米は輸出量が少ないだけでなく、生産量に占める輸出量の割合も小さいから、(カ)に生産している国や地域が多そう」

三郎「逆に、大豆は生産量が少ないにもかかわらず、生産量に占める輸出量の割合が大きくなっているよ。図5にみられるように、それは世界の大豆輸入における中国の輸入量が拡大したことが、生産量に占める輸出量の割合を押し上げたみたいだね」

太郎「なぜ、中国の輸入量が急激に増加したのだろう？」

桜子「それは、中国では経済発展にともなって食生活が変化して、(キ)の大豆の需要が急激に高まったからでしょうね」

*大豆の用途についての解答は「飼料用」となっているが、実際には搾油による食用油、搾り粕が飼料原料に使用されている。搾油による食用油の需要が増大し「食料用」として使用されているため、解答を「飼料用」のみとすることには疑問が残る。

	カ	キ
①	自給的	食料用
②	自給的	飼料用
③	商業的	食料用
④	商業的	飼料用

(4) 大豆

1) 輸入量と自給率

中国国内における食用油需要の増大により、産油率において中国国産大豆を大きく上回る遺伝子組み換え大豆の輸入が急増している。USDAによれば国内消費量のうち搾油用の割合は85%前後であり、そのほとんどすべてが輸入大豆により占められている。

STEP2 問いから、どのような思考力が必要とされたかを検討する

> 四大穀物がどのような目的のために生産されているかを、生産量と輸出量の統計から傾向性を推定する。また、大豆の輸入量が急増した中国に着目して、中国における大豆の用途を推定する。

STEP3 具体的に求められる思考力を検討する

統計表とグラフから読み取った情報を基に、米と大豆の流通の特徴についてとらえ、その用途の変化について考察する。

>ウ 事象について多面的・多角的に分析し、分解して理解できる
(analyzing and separating a phenomenon)

RESULT D → ウ (1例)

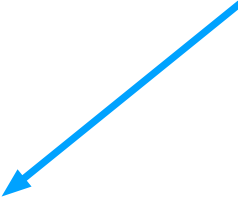
解答番号10

主に問いたい資質・能力

D 「地域的特色について多面的・多角的に考察することができる」

中村・蒼下の分類

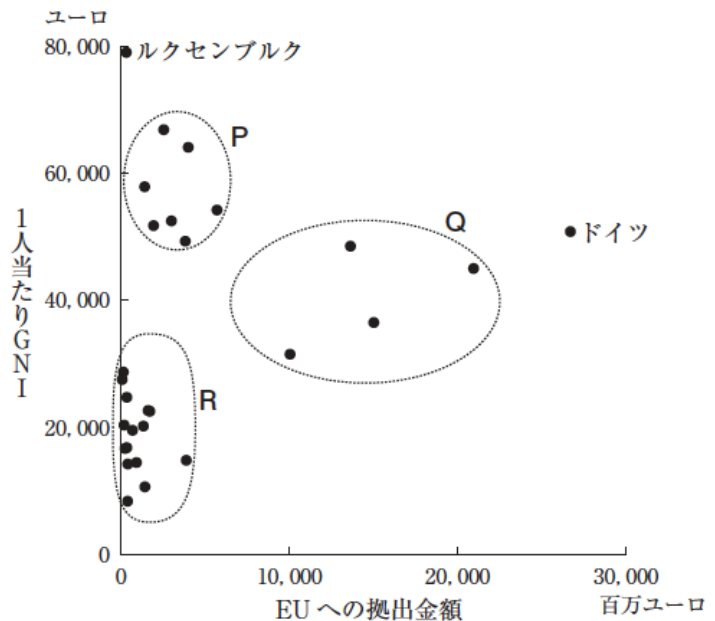
「ウ 事象について多面的・多角的に分析し、分解して理解できる」
(analyzing and separating a phenomenon)



E 「地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる」の設問について

問5 ユウさんは、EUへの拠出金の分担をめぐって、加盟国間で議論が交わされていることを知った。各加盟国のEUへの拠出金額と1人当たりGNI（国民総所得）との関係を調べるために、ユウさんは次の図4を作成した。下のカ～クの文は、図4中に示したP～Rの国家群について説明したものである。P～Rとカ～クの文との正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

23



STEP1 設問を受検者にとっての問いに置き換える

問い「EUへの拠出金額の違いと、経済成長の度合いの関係はどのようなものか？」

- カ EUの政治経済において中心的な役割を担ってきた国が多い。
- キ EU発足後に新たに加盟した国が多い。
- ク 国内人口は少ないが、経済活動が活発な国が多い。

P ク (スウェーデン, デンマークなど)

Q カ (フランス, イタリアなど)

R キ (ハンガリー, スロベニアなど)

STEP2 問いから、どのような思考力が必要とされたかを検討する

＞EUを便宜的に3つ程度のグループに分類した上で、経済成長の度合い、同時に、一定の経済的豊かさを持つ国（先進国）においては人口規模の違いを比較し、EUへの拠出金額に違いが出ることを判断する。

STEP3 具体的に求められる思考力を検討する

散布図からEUへの拠出金額と1人当たりGNIの相関について分析し、EU加盟国の特徴について考察する。

＞エ 事象について多面的・多角的に比較し、分解して理解できる
(comparing and separating a phenomenon)

RESULT E → エ (3例)

解答番号23

主に問いたい資質・能力

E 地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる

中村・蒼下の分類

「エ 事象について多面的・多角的に比較し、分解して理解できる」
(comparing and separating a phenomenon)

3. 問題分析の結果

- ◆アやイを試す出題は、「知識・理解」系に近い能力を試すもので、20問中15問（75%）
- ◆ウとエを試す出題は、「思考力（考察）」を試すもので、20問中5問（25%）
- ◆今後重視されるウから力に関する出題は、全30問中9問（30%）
- ◆思考力、判断力、表現力等に関する出題は、実質的にどのような要素を試すものであるか
- ◆今後重視されるウから力に関する出題は、今後どの程度のウェイトを持つか

受験者は何が試されたのか？

学習者が「何をしたか」→

←「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）

学習指導要領解説

アの事項の<a>を基に、イの事項の<c>に着目して、<d>主題を設定し、それに応じた「小項目全体に関わる問い」を学習上の課題として生徒に提示する。この「問い」を踏まえて、<e>を考察し表現して、アのの理解に至るという構造

(1) 生活文化の多様性と国際理解

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

〈 a 〉 世界の人の特色ある生活文化を基に、〈 b 〉の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。

(イ) 世界の人の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

〈 c 〉 世界の人の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 〈 d 〉 〈 e 〉

(1) 「考察することができる」を語尾とする設問 (思考力)

ア 事象について原因と影響の関連性を特定できる (identifying cause and effect) 8問

イ 事象についての重要な特質を定義付けることができる (defining) 7問

ウ 事象について多面的・多角的に分析し、分解して理解できる (analyzing and separating a phenomenon) 1問

エ 事象について多面的・多角的に比較し、分解して理解できる (comparing and separating a phenomenon) 4問

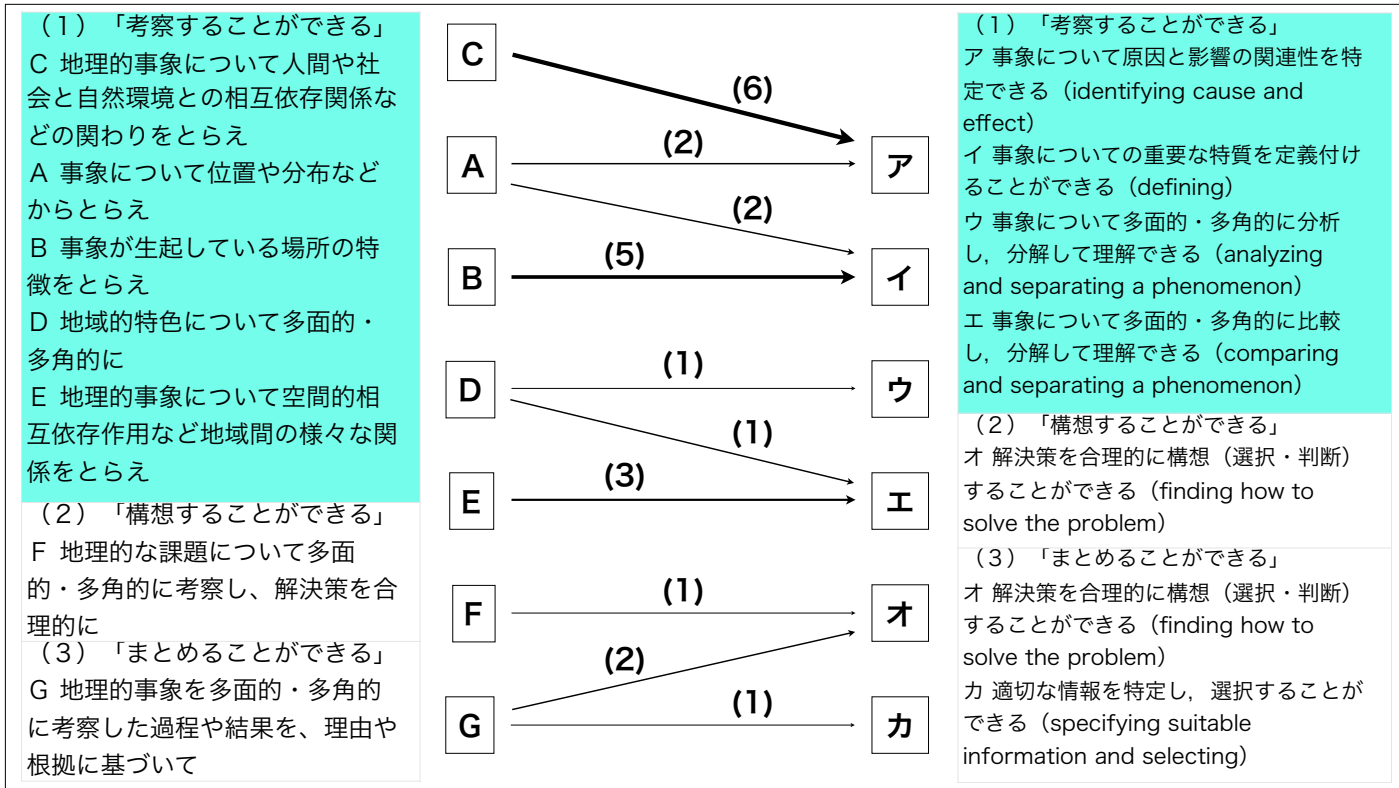
(2) 「構想することができる」を語尾とする設問 (判断力)

オ 解決策を合理的に構想 (選択・判断) することができる (finding how to solve the problem) 1問

(3) 「まとめることができる」を語尾とする設問 (表現力)

オ 解決策を合理的に構想 (選択・判断) することができる (finding how to solve the problem) 2問


カ 適切な情報を特定し、選択することができる (specifying suitable information and selecting) 1問



4. おわりに

- ◆思考力、判断力、表現力等を身に付けさせることは、授業過程において今後ますます重要になってくる
- ◆特に考査、入試などの評価問題は、授業者及び学習者にとって学びの方向付けとなる点で大きな役割を持つ
- ◆高等学校学習指導要領実施までに、残された時間は多くない。各学校や各教育委員会において、考査等の評価問題の協同的な開発の場はより一層重要となる
- ◆今後重視されるウから力に関する出題が、今後どの程度のウェイトを持つか注視したい
- ◆研究の課題として、アから力の思考力、判断力、表現力と知識・理解は、構造的な学習過程を構成している。どこにウェイトがあるかについて注視したい

今後の注目点



アの事項の<a>（知識）を基に、
イの事項の<c>に着目して、
<d>主題を設定し、
それに応じた「小項目全体に関わる問い」を学習上の課題として
生徒に提示する。
この「問い」を踏まえて、<e>を考察し表現して、
アのの理解に至るという構造